

《コロナワクチン後遺症》頭痛、高血圧、視覚異常、パーキンソン病……京大名誉教授が読者の疑問に答える

4/25 文春オンライン

『文藝春秋』2024年4月号に掲載された「コロナワクチン後遺症の真実」の大反響を受けて、この記事執筆した京都大学名誉教授の福島雅典氏をお招きして、読者・視聴者からの質問に答えるウェビナーを開催。事前に質問を募集したところ、皆さまから寄せられた質問は100件を超えました（『文藝春秋』2024年5月号には福島氏が読者から寄せられた疑問に答える記事が別途掲載されています）。

ワクチン接種後の不安について適切な回答を得られる相談先がわからず、お困りの方は少なくありません。福島氏には、ワクチン後遺症の可能性について具体的な症例を挙げて見解をうかがったほか、ワクチンによる健康被害の救済制度に関するお悩み、健康に問題を感じている方へのアドバイスなど、幅広い質問に回答いただきました。聞き手を務めたのは、ジャーナリストの秋山千佳氏です。



問題提起は「サイエンス」の実践である

——今回、たくさんの質問を読者からいただいておりますが、このような状況を福島先生はどのように受け止めていますか。

福島 たくさんのお読みになった方が疑問に思っている。今までどこにぶつけていいのかわからなかったから、皆さんも質問を寄せられたと思うんですよね。

——では1つ目の質問です。これは助産師さんの方からいただきました。「『文藝春秋』4月号の記事に対して『雑誌に論考を掲載するよりも論文にせよ』という批判をネットではよく目にします。福島先生の反論を教えてください」という質問です。

福島 『文藝春秋』で書いたことは全て論文にしているんですね。新型コロナウイルスが日本に上陸したときから、折に触れて論文にしています。

これらの論文を全てまとめて、去年の秋口に出版した本が『COVID-19 パンデミックと向き合った1000日 ～ 一臨床科学者の記録:新型コロナウイルス感染症関連 福島雅典 論文集』です。LHS研究所のホームページで全文をご覧いただけます。

——視聴者の皆さんの中には、福島先生の経歴をご存じない方も多いと思います。そこで、最初に福島先生のキャリアを3つのキーワードで整理したスライドをご用意しました。

1つ目として挙げられているのが、福島先生は日本のがん内科医、いわゆる腫瘍内科医の先駆けでいらっしゃるということですね。

福島 そうです。私が腫瘍内科という言葉をはじめて使うようにしました。アメリカの臨床腫瘍学会のメンバーになった日本人の第一号が私です。京都大学では、がんの外来化学療法部を日本で初めて設置しました。

——今回いただいたご質問を見ていると「ワクチンを打ったら抗がん剤も使わないほうが良いのだろうか」と悩んでいる方もおられるようです。ただ、先生は抗がん剤を否定しているわけではないんですよね。

福島 ぜんぜん違います。『文藝春秋』4月号であえて紹介したように、私の妹がワクチン4回接種後に乳がんを発症したときにはびっくりしましたが、今は抗がん剤を半年使っても問題なく過ごしています。

——福島先生の経歴では、2つ目がワクチン問題への発言とつながる部分が大いと思うのですが、日本初の薬剤疫学の講座を京都大学で創設したと。

福島 当時、日本で起きていた薬害問題を懸念している先生方といっしょに、京都大学で薬剤疫学の講座を立ち上げることになりました。

——3つめが、再生医療をはじめとして日本アカデミア発の医療イノベーションの数々を承認・市販というところまで導いてこられたと。

実は、福島先生と私の最初の出会いは、コロナワクチンの問題が起きる以前、先生が承認・市販まで導いた再生医療の薬剤を取材させていただいた機会が最初でした。

このように、福島先生は薬剤を世に出す立役者でもいらっしゃるのだから、「全ての薬を否定する立場ではない」と、ご覧の皆様には最初に伝えておきたいところですね。

福島 そうです。「サイエンス」をきちんと実践することが私の性分なんです。薬やワクチンを「否定する」なんていうことではありません。

副反応」は国際的に通用しない言葉

——福島先生の論文には「国が副作用として認めたもの以外にも、時間的關係はあるけれども因果關係が確定していない健康上の問題（有害事象）が含まれている」という批判もあるようですが、この点についていかがでしょうか。

福島 まず、医薬品の用語法は国際的に定められているのですが、日本では「副反応」と紛らわしい言葉を使っていますね。しかし、国際的に使われている用語は「薬物有害反応（adverse drug reaction）」だけなんです。これはICH（医薬品規制調和国際会議）のガイドラインに明記されています。

ただ、欧米では「副作用（side effect）」を薬物有害反応として理解する人も多いので、アメリカの政府機関・CDC（疾病予防管理センター）などでは「薬物有害反応（副作用とも呼ばれる）」といったことが書かれています。

用語とは、きちんと定義されて使われているものです。日本では、「有害事象が自発的に報告された場合は、たとえ因果關係について不明又は明確に述べられていなくても、規制当局への報告目的からすれば、副作用の定義を満たすことになる」と、厚労省が通知しています。

ですから、「自発報告」があれば、これはもう副作用と呼ぶべきです。しかし、わけのわからない「副反応」なんていう言葉を流布して「副反応なんだから副作用とは違うでしょ」

と言っている。私からすれば「国語をもう一度勉強しなさい」と言いたい。

——簡単に一言で表してしまうならば、「副作用」という言葉の定義は、国際的に定められている。そして、厚労省が「副作用とはこういう定義ですよ」と通知している内容は福島先生が言うように「有害事象として報告が上がっているものは全てを副作用として認めるんだよ」ということですね。

福島 ええ、そういうことです。それでないとサイエンスとは言えません。

国の救済制度に当初予算の約 110 倍の額が

——2つ目の質問は、「予防接種健康被害救済制度」が適用される規模についてです。「厚労省は令和5年度の補正予算で、397億7000万円を予防接種健康被害救済制度に充てました。ワクチン後遺症被害はどれくらい広がるのでしょうか。そして、収束はできるのでしょうか」と質問が来ています。

視聴者の方の中には、この救済制度をご存じない方もいると思いますが、厚労省からワクチンの接種による健康被害と認められた方には給付金が支払われる制度です。コロナワクチン接種後に健康被害が起きた場合、お医者さんから「こういう有害事象が起きましたよ」という診断書をもって、市町村の窓口を通じて国に申請ができます。

この制度について、補正予算では当初予算の約110倍の額がつかしました。質問した方は、健康被害の広がりや予算拡大に感じているのだと思います。

福島 非常に重要な質問ですね。現在、約2000人の死亡報告が厚労省に上がっていますが、亡くなってはいないけれども健康被害を受けた方もおられます。このような方を含めると、被害認定の数はうなぎ登りに増えていきます。死亡された方の数をもとに試算しても、金額は800億円を超えています。健康被害を訴えている方が今後認定されていくことを考えると、総額は軽く1000億円を超えるでしょう。

——ワクチン被害は接種直後だけではなく、後々になってから症状が現れる方もおられると思います。ワクチン被害は、どれだけの時間が経ってから発症するものなのでしょうか？

福島 それには私も頭を悩ませています。2024年4月には、高知大学の佐野栄紀特任教授の研究チームが論文を出しましたが、これによると新型コロナウイルスのワクチンを接種した人の「汗疹（あせも）」を調べると、ワクチン接種後から1年以上経っているにもかかわらず、mRNAワクチン由来のスパイクタンパク質が見つかったんですね。

そもそも新型コロナウイルスワクチンとは、ウイルスのスパイクタンパク質の“設計図”にあたるmRNAを脂質に包んだようなものです。これを接種すると、細胞が“設計図”をもとにスパイクタンパク質を作り出すので、新型コロナウイルスに対する抗体が作られます。

しかし、このスパイクタンパク質は非常にたちの悪いものでもあります。スパイクタンパク質を持つ細胞が抗体から攻撃されることにより死んでしまうので、自己免疫疾患が引き起こされるからです。

——当初、厚労省の説明では「数時間から数日でワクチン由来のスパイクタンパク質は体内から消えていく」というような説明だったと思います。ところが、佐野特任教授たちの論文によると、1年経ってもワクチン由来のスパイクタンパク質が体内に残っていた。

福島 これは重大な発見です。1年以上経ってもスパイクタンパク質があるということは「細胞が今もスパイクタンパク質を作っているんじゃないか？」と疑わざるを得ません。

接種された mRNA が DNA に組み込まれている可能性があるので、スパイクタンパク質がずっと体内に残ることを懸念する学者は以前から大勢います

スパイクタンパク質の「神経毒性」

——3つ目の質問は「痺れ」についてです。「ワクチンを3回接種後の2022年11月末、新型コロナウイルスに罹患しました。さらに1カ月後、突然、血圧が200を超えて救急搬送されました。その後、唇とその周辺が麻痺したまま改善しません。医師によると、パーキンソン病の初期段階かもしれないということですが確定できず、私からワクチン後遺症の症例にある顔面麻痺ではないかと訊ねました。しかし、明確な返事はいただけませんでした。これは新型コロナウイルスの後遺症と言うよりは、ワクチン後遺症の可能性があるのでないでしょうか。そうだとすれば、どうすればよいのでしょうか」という質問です。

福島 まずは、神経内科医といった専門医にきちんと診断してもらう必要がありますね。一口に「痺れ」と言いますが、質問された方の場合、感覚が麻痺している。あるいは、運動機能が麻痺しているかもしれない。

これは即断できる問題ではないのですが、ただし、スパイクタンパク質が神経系を侵しうるとははっきり言うことができます。スパイクタンパク質には神経毒性があるからです。

それから、質問された方は血圧が急に上がったとのことですが、これも既に報告されています。新型コロナウイルスワクチンが循環器系にもたらす緊急事態については、早々に総説論文が出ているぐらいに多数の報告例があります。私の友人の娘さんでも、ワクチンを打ってからというもの、仕事ができなくなるほど血圧が突発的に上がるようになった方がいます。

——ワクチン後遺症が新型コロナウイルスに罹患後、酷い形で発症したというような可能性を、この質問者さんについて考えても良いのでしょうか。

福島 その可能性を含めて検討する必要があるわけです。今は「コロナ後遺症」ということにも多くの方が苦しんでおられる。これに関しては、令和3年に国会への請願が行われました。一方で、「ワクチン後遺症」としか言えないような患者さんも大勢いらっしゃるので、「全国有志医師の会」の先生方が頑張っておられます。

研究体制をきちんとしないとダメだと、再三再四、私は厚労省に言ってきましたよ。内閣府の首相補佐官と話したり厚労大臣にも要望書を出したりして、「プロを集めた研究体制を作らないとダメですよ」と伝えてきたわけです。

特に、新型コロナウイルスは呼吸器に来るわけですから、感染症の専門家だけでなく、呼吸器内科の意見が必要です。特に、間質性肺炎の専門家が望ましいと思います。また、血栓が起きるのだから、血液内科の先生も必要ですし、血液がん詳しいがんの専門医も重要です。

スパイクタンパク質は、神経以外にも様々な部位に毒性があります。また、細胞がスパイクタンパク質を作るようになれば、抗体に攻撃されるので自己免疫疾患も引き起こされます。このように様々な可能性が考えられるのですから、病気を正面から見つめて研究を推進していかないとダメだと思います。

——いただいた質問の中には、痺れに関して気になる内容のものがありません。「2回目のワクチンを接種してから、両足先が痺れており、今は歩けないほど酷い状態です。ネット販売している第三類医薬品市販薬を真面目に飲んでいますが、まったく効きません」と

いう声を男性の方からいただいています。

「新型コロナウイルスの後遺症かもしれない」と、健康不安を抱えておられる方が、市販薬やサプリの自己処方だったり、民間療法だったりに頼ることについて、福島先生の考えを教えてください。

福島 生兵法は怪我のもとです。自己判断や知人からの伝聞をもとに色々なものを飲んだがために、酷いことになっている例がたくさんあります。だから、「医師に相談する」というのが第一です。

一方で、医師の側にも私から伝えたいのが「症状とワクチンの関連を真っ先に考えてほしい」ということです。「今後はワクチンによって色々なことが起きるだろうから、循環器系に限らず、自己免疫、神経、がん、感染症などあらゆる疾患についてワクチンとの関連を考えなくてはいけない」と、2021年の時点に私は論文で指摘しています

ワクチン接種後に健康問題を感じたら

——4つ目の質問は、目の疾患や頭痛についてです。「ワクチン3回接種後、頭痛が途切れなくなり、1日に3回、鎮痛剤を飲むようになりました。今までこんなことはなかったのでワクチンを接種した病院に問い合わせたのですが、取り合ってもらえません」と58歳の男性からいただいています。また「5回目接種から半月後に右目が見えなくなり、網膜静脈閉塞症と診断され、いまだ視力回復に到っていません」という方もいらっしゃいました。

目の疾患や頭痛は、ただちに命に関わるわけではないのですが、健康被害として数多くの質問をいただきました。このような方々にアドバイスはなにかありませんか？

福島 「これはワクチンのせいじゃないか」と思ったら、医師の診断のもと予防接種健康被害救済制度の自治体窓口申請を出してください。

ワクチンの可能性を否定してはいけません。勝手な判断はダメです。もしも、ワクチン後遺症の可能性に医師が向き合ってくれない場合は「全国有志医師の会」に連絡すれば、お住まいの地域で向き合ってくれる医師を教えてください。

申請を出すには、ワクチン接種証明書や診断書など様々な証拠が必要になりますが、こうしたことは自治体窓口がちゃんと教えてくれます。

ちなみに、目の疾患や頭痛はワクチンとの関連についてたびたび報告されてきました。そのほかの症例も多数報告されていますが、これらは「ワクチン問題研究会」のホームページに掲載している論文で一覧できます。

- ・ 番組内で取り上げられた疾患に関連するレビュー論文へのリンク一覧
- ・ 質問で取り上げられた疾患についての日本の学会発表ないし海外の総説論文へのアクセスデータベース

◆本記事の全文は「文藝春秋 電子版」に掲載されています。

文藝春秋 電子版で読める福島雅典氏「コロナワクチン後遺症」

- ・ 第1弾 「コロナワクチン後遺症の真実」
- ・ 第2弾 「コロナワクチン後遺症 読者の疑問に答える」
- ・ ウェビナー動画 「コロナワクチン後遺症 読者の疑問に答える」
- ・ ウェビナーテキスト 「頭痛、高血圧、視覚異常、糖尿病、パーキンソン病、ALS……コロナワクチン後遺症 読者の疑問に答える」

福島 雅典, 秋山 千佳 / 文藝春秋 電子版オリジナル